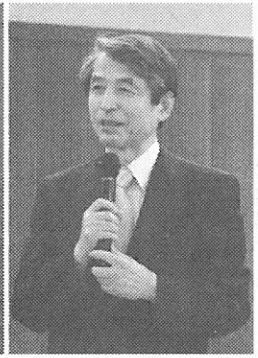
岡山大 学長トップセミナー
三井造船の田中社長CEOが講演

岡山大学は10月18日、三井造船㈱の田中孝雄社長CEOを招き、学長トップセミナーを開催した。

講演する田中三井造船社長


挨拶する槇野学長

田中社長は、「グローバル企業におけるトップマネジメント～グローバルな競争下における大学経営への示唆～」と題し、伝統ある同社の歴史から組織マネジメントにかかる意識改革、人材育成プログラム、グローバル化・経営の多角化を目指した果敢な取り組み、それらを実現するための持株会社体制への移行等について、具体的なデータを交えながら講演。講演後の質疑応答では、企業が求める人材像や産学連携の在り方、組織改革の担い手、持株会社移行後の大学に対するスタンス等に関する質疑があり、活発な意見交換を行った。

同大の学長トップセミナーは、大学を取り巻く様々な課題へ対応する知見を探るため、各界の有識者を招き、大学構成員の意識改革と実践に資するセミナー。今後も各方面で御活躍の講師を招いて開催し、多くの教職員が業務を遂行する上での知識を深める場として活用していく。

＝広島大学＝
中国・四国地区国立大学法人等 会計事務研究協議会

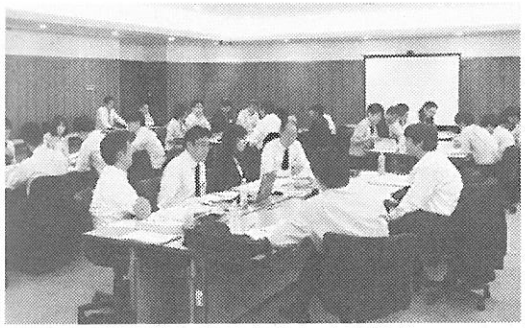
広島大学、広島商船高等専門学校、呉工業高等専門学校を当番校として、10月12日に『第55回中国・四国地区国立大学法人等会計事務研究協議会』を岡山大学で開催した。

協議会は、中国・四国地区国立大学法人および独立行政法人国立高等専門学校機構高等専門学校の会計業務に関する情報交換および課題の検討を目的に毎年度開催している。

今年度は、各機関から係長相当職以上31人が参加し、「研究費の管理・使用について」および「決算業務の改善及び効率化等に関する取組について」の2つをテーマに、班別討議および発表を行った。

2つのテーマともに、各機関が置かれている状況や運用は異なっているが、積極的な討議が行われ、班ごとに討議内容を発表した。

出席者は、班別討議および発表内容を持ち帰り、各機関の中で活用されることが期待される。


積極的に意見を交わす出席者

＝広島大学＝
留学生が「呉市吉浦かに祭り」見学

広島大学に到着したばかりの広島大学短期交換留学プログラム（HUSA）留学生34人（北米・ヨーロッパ・オセアニア・アジア出身）が、10月1日に開催された呉市吉浦八幡神社に伝わる「かに祭り」（秋大祭）を見学した。国際センターの恒松直美准教授がHUSAプログラム留学生を呉市吉浦かに祭り見学に引率するのは今年で15回目、日本文化に興味を持つ留学生は毎年この行事を楽しみにしている。

かに祭りは五穀豊穣と豊漁を願い、各地区から出される神輿（みこし）やお船が神社に向かい、鬼や「ばくろう」（馬喰・馬・牛の仲買人）が竹棒をもって道を作っていく様子に、留学生は見入っていた。「そーりゃさげた」の掛け声とともに、「ちょうさい」と呼ばれるだんじりや神輿、漁師さんのお船をかついで、行き来する地域の方々の一生懸命な姿に、留学生も感動した様子だった。

日本の地域に残る伝統的祭りの雰囲気を体験する留学生